

# 湿地の環境

## 自然の湿地

湿地といえば、群馬県ぐんまけんの尾瀬ヶ原おぜがはらや北海道ほっかいどうの釧路湿原くしろしつげんなどが有名ですが、このような広大な湿地は大阪府にはありません。しかし、山間の水田の奥やため池の周りなどには、小さい湿地が点々と残っています。能勢町のせちょうの地黄じおうや四條畷市しじょうなわてしの室池むろいけ周辺いずみし、和泉市しのだやまの信太山などでみられるのがその例です。

ここでは、地面からしみ出した水などが、土の栄養分えいようぶんを流してしまうため、やせて酸性えいようぶんになっていることが普通です。栄養分えいようぶんが少ないため、「貧栄養湿地ひんえいよう」とよばれます。植物にとっては大変厳しい条件となるので、多くの植物には耐えることができません。そのかわり、他の場所ではみられない植物や昆虫などの生きものの生活場所となっているのです。

サギソウやトキソウ、モウセンゴケなどは、このような栄養条件えいようの厳しい場所きびでしかみることができません。日本で最も小さいトンボであるハッチョウトンボも、やはりこのような環境で多くみられます。これらの生きものは、育つための競争力が弱いため、他の生きものが好まない栄養条件えいようの悪い環境てきごうにうまく適合てきごうすることで、競争を避けていと考えられています。



87. ハッチョウトンボ (♂)



88. ハッチョウトンボ (♀)